



里芋掘り体験 を通して

井波中学校3年
高山 栄



私たちは、「総合的な学習の時間」に井波地域の活性化を目指して活動しています。私たち「食コース」16名は、専勝寺の圃場で里芋掘り体験をさせていただきました。

掘り起こした株を板に当てて芋をばらすのですが、里芋の株が想像以上に重く大変で、農家の方の苦労が身に染みて分かりました。スタッフの皆さんが掘り方を親切に教えてくださったおかげで、たくさん収穫することができました。掘った芋は、家でサラダや天ぷらにしておいしくいただきました。

これからも里芋を食べる人が増え、山野の里芋のおいしさがさらに広められるように、私たちにできることに取り組んでいきたいと思っています。



令和7年を振りかえって



山野地域づくり協議会長
藤原 洋



4月に会長を拝命して以来、令和7年を振り返りますと、地域の皆様にかくお支えいただいた一年でした。

全戸配布しました「山野地区集落の教科書」を活用し、地域を再確認していただくとともに、地域外へ山野を広くPRする機会も増え、次代へ地域のありのままを伝える大切さを深く実感しました。また、リニューアルしました「ふれあい広場やまの」では里芋をキーワードに交流が広がり、笑顔と活気に満ちた場となりました。さらに「防災・安全」への取り組みも進展し、訓練や備えを通じて安心して暮らせる基盤が整いつつあります。

コロナ禍を経て3年が過ぎ、盆踊りなどの行事に多くの子供たちが参加する姿が見られ、未来を担う若い力の芽吹きも感じられます。

来年の干支は丙午（ひのえうま）。情熱と行動力をもって、「楽しく、安心して暮らせる山野」を皆様と共にさらにうまく目指していきたいと思っております。ご協力をお願いします。

8/16 三世代交流盆踊り大会



8/6 盆踊り練習風景

三世代交流盆踊り大会 を終えて

盆踊り大会実行委員長 山田 義弘



総会より、文化委員長という大変重い職責を承り、何もわからなまま過ぎてしま

いました。ただこんな頼りない私を周りの方々が支えていただき、何とか諸行事をつつがなく進行できたことに大変感謝しております。

特に盆踊り大会に際しては、打ち合わせの段階から役員の皆さまより多くの貴重なご意見を頂きました。そしてそれぞ

れの役割を受けていただいた方々の確かな事前準備のおかげで、本番当日の舞台や各種の設営を滞りなく進めることができました。さらに天候にも恵まれ、大会を盛況のうちに終えることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を大事にしていきたいと思っています。

木彫り音頭

永山 茉莉

今年は婦人会として参加しました。事前の練習にも娘と参加し、娘のお友だちも一緒だったので娘も楽しみにしていました。

私は井波出身ではないので、木彫り音頭は毎年見よう見まねで何とか踊っていますが、井波っ子の娘は保育園でも習い、踊りの先生にも「お母さんより上手ね」と言われるほど上手に踊っています。「井波の方々は音楽が流れると自然に身体が動く」と言いますが、そのような場が残っていけば良いと思います。

10/19 第4回山野ふれあい祭り 文化祭・敬老会

深まった心の絆

ふれあい祭り実行委員会

副委員長 河原 秀樹



穏やかな天候に恵まれ、多くの来場者の笑顔に触れた一日となりました。展示会場では見応えある作品が並び、活動発表では練習成果が存分に発揮され会場は熱気に包まれました。玄関前のバザーも賑わいをみせ、午後の敬老会式典では米寿を迎えられた方々へ南砺市からのお祝い状が手渡され、心温まる時間を共有しました。今回のふれあい祭りを通じ、地域の絆が一層深まったことを確信し、関わって下さった皆様に心より感謝申し上げます。

敬老福寿

ふれあい祭り実行委員会

副委員長 磯辺 正博

75歳以上の皆様をご招待し、70余名のご出席をいただいて敬老会を開催しました。米寿を迎えられた13名の方々は、南砺市長からのお祝い状が地域包括医療ケア部次長 松岩健志様より手渡されました。また、市議会議員 川原忠史様からご祝辞を賜り、式典終了後には記念撮影を行いました。会場の様子は一階和室展示室のテレビで放映され、来場者の皆様に好評でした。

皆様と共に和やかなひとときを過ごせたことを大変嬉しく思います。今後も、より集いやすい敬老会づくりを目指してまいります。

米寿の方々

石黒外志子(坪野) 高川信子(飛騨屋)
大久保利志子(坪野) 高田和子(飛騨屋)
西村行吉(坪野) 築田辰子(野能原)
米倉貞徳(山斐) 佐竹光子(安室)
岩城竹代(岩屋) 森田逸子(安室)
柴田壽和(岩屋) 村岡美子(専勝寺)
齊藤清久(飛騨屋)



文化祭と敬老会を終え

ふれあい祭り実行委員会

副委員長 河原 祥滋

文化祭と敬老会を終え、長寿会の役割の多さを改めて感じました。会を円滑に進めるには多くの方々の協力が必要で、うどんの販売は前売り効果もあり好調でした。男女それぞれの役割も自然に決まり、町内の皆様との会話も弾み、和やかな雰囲気にも包まれました。数量の心配もなく段取りは阿吽の呼吸で進み、天候にも恵まれました。

また、カレーとの組み合わせも好評で、うどんだけでなくカレーうどんも人気を集め、販売に拍車がかかりました。持ち帰りのお客様もあり、売れ行きは終始上々でした。長寿会のブースはテント席の半分以上が埋まり、さらに多くの人であふれるほど盛況で、最

高の結果となりました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

集う「ふれあい祭り」に笑顔の花

生花クラブ 高山 照美

第4回山野ふれあい祭りに向け、8月末に実行委員会が開催されました。山野地域づくり協議会 藤原洋会長の挨拶にあった「今回ちよつとだけ頑張つて…」の言葉を胸に、少なくともできた会員ですが個性を生かし、展示物との調和を意識して準備しました。

会場には立派な額に収められた墨絵や書道が並び、彩り豊かな花々が華やかさを添えました。「彩る秋を語る私のお花」と題し、ピンポン菊、フウセントウワタ、ピンクツシヨン、ダリア、菊、ストレチア、ワックスフラワー、ウメモドキを活け、来場者に楽しんで

いただけたと思います。

私たち生花クラブは山野中央会館当初に発足した歴史あるクラブの一つです。皆様もぜひ花に触れ、一緒に学びながら活かしてみませんか。

地域に届ける剣詩舞の心

詩千会 光主 優

ふれあい祭りの活動発表にて剣詩舞を発表させて頂きました。日々の練習で培ってきた成果を地域の皆様にご覧いただき、温かい拍手や励ましのお言葉を頂戴し、大きな喜びと学びのある時間となりました。

一緒に出演させて頂きました小学生の生徒達も、緊張しながらも会場の温かい雰囲気の中で一生懸命日頃の練習の成果を披露できました。貴重な舞台の機会を頂けたことに心

より感謝申し上げます。

これからも地域の皆様に喜んでいただける舞を目指し、日々練習に励んでまいります。



AED訓練



米寿おめでとぅございます

敬老会当日にご参加いただけなかった8名の皆さまには、10月26日・27日の両日、山野地域づくり協議会の藤原洋会長と磯辺正博健康福祉部長が各ご家庭を訪問し、南砺市長からのお祝い状を直接お届けしました。

地域の皆さまの長寿を祝う気持ちを、会場に来られなかった方々にも丁寧にお伝えすることができました。



齊藤清久さん



柴田壽和さん



大久保利志子さん



石黒外志子さん



村岡美子さん



佐竹光子さん



高田和子さん



高川信子さん

夏季清掃・美化活動

夏季を迎えるにあたり各団体の協力のもと清掃・美化活動を行いました。

8月3日には山野交流センターで夏季一斉清掃を実施し、地域の皆さまにご参加いただきました。

8月10日の一斉美化運動は、あいにくの雨天により中止となりましたが、8月13日に山野長寿会、遺族会及び地域づくり協議会役員の皆さまのご尽力により、山野保育園グラウンド、農村公園、忠魂碑などで草刈りや剪定が行われ、地域全体で気持ちよくお盆を迎えることができました。



環境美化運動 チューリップ植え込み

11月20日、前日まで木枯らしの吹くような寒い朝でしたが、当日はお日様が顔を出す気持ちの良い朝になりました。ボランティアグループの皆様と協力し、交流センターの花壇とプランターにチューリップ球根の植込み作業を実施しました。

花が咲いた時の色合いを想像しながら球根の配色を考えたりして参加者同士の交流も深まり心温まるひとときとなりました。ご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。



8/9 立山登山



立山登山に参加して

齊藤 公江

一度は登りたかった立山。

富山県で生まれ育ったなら登らんなんやろと、何度か話がありました、天候や時期に恵まれずなかなか実現しませんでした。山野地区の立山登山は以前から興味があり、今回初心者ながら雄山コースを申し込みました。

当日は天候に恵まれ、絶好の登山日和。期待と不安の中登り始めましたが、やはり思ったとおりキツく途中何度も心が折れそうになりましたが、一緒に登ったコースのみなさんの声掛けや励ましてくださったおかげでなんとか山頂につきました。

山頂の景色はとても素晴らしく、海や遠くの間々もハッキリとみることが出来、登山中に思っていたモヤモヤも吹き飛びました。また、来年も挑戦したい。「今度は迷惑かけんように」と思う気持ちになりました。

立山登山に参加して本当に良かったと思います。そしてお世話頂いたみなさんありがとうございました。



チャレンジスポーツ

☆やまの9/28



スポーツ推進委員長

榎本 勝規

山野交流センターで「チャレンジスポーツ☆やまの」を開催しました。参加者はバスケットボールのフリースローやフリスビー、卓球・バドミントンを使った射的風ゲーム、ボッチャや輪投げなどに挑戦し、スコアを競いました。さらに太鼓の達人大会も同時開催し、eスポーツを加えた総合スポーツの祭典となりました。

かつては町内対抗の地域運動会が行われていましたが、コロナ禍で中止となり、自由参加型のイベントへと形を変えて今年で3年目を迎えます。町内対抗の要素を懐かしむ声や世代間交流など今後はさらに工夫が求められます。

ご参加いただいた皆さまに感謝申し上げます。

スポーツの意義

スポーツ推進委員 越山 穂高

わたしたちは、スポーツに親しむことによって、体を動かすという人間の本源的な欲求の充足を図るとともに爽快感・達成感・他者との連帯感等、精神的な充足も図り、更には、体力の向上・ストレスの発散・生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進に大きな効果を得ています。

各々スポーツをする理由は異なると思いますが、わたしは「チャレンジスポーツ☆やまの」に参加する理由として、スポーツは一つのコミュニティツールだと感じています。競技を楽しむ傍ら、その場にいる参加者やスタッフとの会話は、得点では表せない楽しみがあります。皆さんも自分なりの楽しみ方を見つけて、スポーツを楽しみましょう。



里芋掘り取り体験会

を開催して

地域活性化部長 松川 毅

山野特産里芋の作付面積拡大と担い手育成を目指し「里芋で元気なまちづくり」を掲げて発足した「やまのいもっこ倶楽部」も6年目を迎えました。

より多くの方に山野の里芋の美味しさを知っていただきたいとの思いから始めた「里芋掘り取り体験会」は今年で4年目、10月18日から26日まで9日間連続で開催し、約700名もの来場がありました。参加者からは「毎年楽しみにしている」「山野の里芋は他より美味しい」「家族で体験できるのが嬉しい」との声が寄せられました。リピート客も大幅に増加し、昨年の来場者273名に案内状を出したところ、222名が再来場し、80%以上という高い参加率を記録しました。



年を重ねるごとに来場者は増え、県内はもちろん東京都・石川県・福井県など県外からも訪れており、井波地域以外に告知していないにもかかわらず、口コミやSNS、知人の紹介などで広がりを見せています。

さらに「山野保育園」との合同活動としてイチゴ狩りやさつまいもの植付・収穫、年末の「感謝の集い」も継続され、地元の井波中学校生徒による視察研修や収穫体験も定期的に実施されています。

これらの取り組みを通じて次世代へつなぐ後継者・担い手づくり、作付面積拡大、そして地域活性化への一助となることを願い、今後も山野地区民のさらなる参加・協力・支援を呼びかけていきます。



9/28 太鼓の達人大会



リベンジたっせい

小学校3年 畑 遥碧



ぼくは、9月に山野交流センターで、太鼓の達人大会に参加しました。ぼくは夏も参加したのですが、結果をのこすことができずくやしかったので、ゲームセンターで何度も練習しました。とくに練習したのが、「ゆめをかなえてドラえもん」です。

本番当日、「ゆめをかなえてドラえもん」でいい点数がとれたので夏のときのリベンジをはたせてうれしかったです。上の学年の人たちは、ぼくよりも、もつともつと点数もたかく上手だったのでもつと練習してうまくなっていました。

次回も参加できる機会があれば、ぜひチャレンジしてみたいです。こうした楽しいイベントがあれば、また参加してみたいと思います。

山野交流センター 中規模改修工事が完了

昭和55年に建設された山野中央会館は、これまで

- ・平成元年 物置設置
 - ・平成5年 増改修
 - ・平成20年 バリアフリー化
 - ・平成28年 耐震補強
 - ・令和4年 スポーツ室床改修
- など、様々な整備を行ってきました。

今年度は中規模改修工事として、スポーツ室の内壁塗装、会議室・調理室棟の外壁角波トタ張り、外壁の全面塗装工事を実施しました。見違えるほど美しく生まれ変わり、より快適な環境となりました。



とやま健康パーク (いきいき健康コース)を体験

ボランティア委員長 川上 久志

11月21日(金)地域づくり協議会の事業の一環として、65歳以上の方々を対象としたとやま健康パーク(いきいき健康コース)体験が行われ、26名の方が参加されました。

体験内容は、フレイルチェックで行われる血圧測定、握力、体脂肪率などのほか歩行能力、体全体の体力バランス(イスや床からの立ち上がり)やペグボードによる作業能力などの生活体力測定も行われました。また、eスポーツ(窓ふきの達人)の体験も行われ楽しい時間を過ごしました。

骨密度、体型チェックなどをオプションで受けられる方もありました。

自分の成績に「一喜一憂」はらはらどきどきの一日でした。今回は、南砺市の日として初めて開催されましたが、参加者からは定期開催を希望する声もありました。



体力バランス



ペグボード



歩行能力



eスポーツ
窓ふきの達人



健康食

キッズポリスが交通安全を呼びかけ

10月22日、山野保育園の年長児8名が「キッズポリス」としてアスモを訪れ、買い物客に交通安全を呼びかけました。

この取り組みは、山野地域づくり協議会と南砺市交通安全協会山野地区支部が南砺警察署の協力を得て、毎年実施しているものです。

子どもたちは、地域づくり協議会で毎月開催している「いきいき健康サロン」や「だれでもなんでもサロン」の参加者が心を込めて作った交通安全アクセサリーや、山野特産の里芋、交通安全のチラシを買い物客一人ひとりに手渡しました。渡す際には「交通安全をお願いします!」と大きな声で呼びかけ、交通安全の大切さを伝えました。

買い物客からは「これからはこれまでに以上に交通安全に心がけます」との声が寄せられ、子どもたちの活動が地域の安全意識向上につながりました。





長谷川勲さん

山野の魅力紹介

7

農事組合法人 清水明営農

里芋を通して会話と楽しさも共有

清水明営農は、農作業の共同化による効率化と集約化を目指し、平成13年に地区内の15名で集落営農組織として設立されました。平成27年には機械の大型化や最新農業機械の導入を進め、より強固な経営基盤の確立と組合員の共同利益の増進を目的に農事組合法人へ移行しました。さらに平成29年には高屋地区が加入し、組合員は26名となりました。

現在、経営耕地面積は約34ヘクタールで、水稲21ヘクタール、大豆11ヘクタール、里芋1・6ヘクタールを栽培しています。山野全体では里芋の作付面積が

かつての20ヘクタールから年々減少し、今年度は約9ヘクタールとなっています。その中で清水明営農は、設立当初から「山野の誇りである里芋」を守り続けてきました。田んぼ1枚40アールから始め、令和元年には「山野で作るべき作物はやはり里芋だ」と組合員全員で確認し、増産に踏み切りました。令和3年には田んぼ4枚に拡大し、総面積は1・6ヘクタールに達しました。

水稲・大豆・里芋を手掛けることで年間を通じた作業が確保され、組合員のやりがいにもつながっています。現在、農作業

に携わるのは15名で、ローテーションを組みながら効率的に作業を進めています。特に人手を要する里芋の掘り取りは、共同作業を通じて自然と会話が生まれ、楽しさも共有できる大切な時間となっています。

代表理事の長谷川勲さんは、かつて3期6年務めた後、嶋信夫さんに交代しましたが、今年6月に嶋さんが急逝されたことにより再び代表理事に就任しました。嶋代表理事が進めてきた事務所及び格納庫の新増築や機械の大型化による近代化、効率化をさらに推進するとともに、組合員の高齢化に伴う後継者問題にも取り組んでいく考えです。

(広報委員会)

編集後記

3年連続で「観測史上最高の猛暑」を記録した2025年も、まもなく幕を閉じようとしています。今年はコメ価格の高騰をはじめ、物価上昇に揺れた一年でした。一方で賃金も3年連続で上昇しましたが、依然として物価高に追いつかないのが実感ではないでしょうか。

当協議会では、任期満了に伴い役員改選を行い、藤原会長を中心とした新体制がスタートしました。お年寄りから子どもまで気軽に楽しめる多彩な活動を展開し、より多くの方に参加いただける地域づくりを目指してまいります。来年も協議会活動へのご参加とご支援をお願いします。

